

月刊 アカンス ニュース

第49号 2000(平成12年).9

「アカンス」とは、古代ギリシャ・ローマに由来し、金沢大学の校章にも使われている植物の名称(和名「ハアザミ」)です。

トップニュース Top News

第1回運営諮問会議を開催



第1回運営諮問会議(あいさつをする林学長)
=事務局大会議室で

8月4日、事務局大会議室で、第1回金沢大学運営諮問会議が開催された。

午前中は、図書館・資料館等と第一期計画事業の造成現場を見学した。午後からの会議では、林勇二郎学長があいさつした後、運営諮問会議会長に石原多賀子金沢市教育委員会教育長(教育改革国民会議委員・文部省教育課程審議会委員)を選出した。議事では、各副学長及び事務局長から金沢大学の理念、現状及び問題点について説明の後、全委員から、教育、研究、交流及び管理運営等について活発な発言があり、会議を終えた。

【2~3頁に関連記事】

学校見学会(オープンキャンパス)で1200人の参加者

8月2日、角間キャンパス、宝町キャンパス及び小立野キャンパスの3会場で、高校生を対象とした「大学見学会」を実施した。この見学会には、3会場全体で約1,200人の参加者があった。

午前中は、各副学長から、金沢大学で学ぶことについての説明があり、午後からは、各自が希望する学部の見学を行った。



説明を聞く参加者たち
=文・法・経済学部講義室で



体験入学でデッサンを楽しむ参加者たち
=教育学部(美術教室)で





運営諮問会議特集

第1回金沢大学運営諮問会議には、つぎの方々が出席され、貴重な御意見・御提案をいただきました。(敬称略・五十音順)

		
石田 寛人 チェッコ国駐劔特命全権大使	石原多賀子 金沢市教育委員会教育長，運営諮問会議会長	澁谷 亮治 社団法人金沢経済同友会代表幹事
		
新木富士雄 北陸電力(株)代表取締役社長	杉原 弘泰 大阪高等検察庁検事長	谷本 正憲 石川県知事
		
徳田 寿秋 石川県高等学校長協会会長	畑中 幸子 中部大学教授	山出 保 金沢市長

梅田俊彦石川県医師会会長，及び宮 太郎石川県商工会議所連合会会頭は，都合により欠席されました。

目次

2000(平成12)年9月 第49号

【1頁】トップニュース

第1回運営諮問会議を開催

学校見学会(オープンキャンパス)で1200人の参加者

【2・3頁】運営諮問会議特集

学長あいさつ

【4～7頁】7～8月の主なできごと 「JAPAN TENT」/「社会教育主事講習会」/「学校図書館司書教諭講習会」/「東海・北陸地区国立学校等技術専門職員研修」/技術支援センター発足/大学評価(相互評価)を申請/「事務一元化」後の検討/「アントレプレナーin金沢大学」/「入試懇談会」/「献体者孟蘭盆会(うらぼんえ)法要」/FD一環の「特別講演会」/セミナー「放送大学と教養教育」/「交通安全講習会」/「東アジアの環境問題」/「研究発表会」を公開/「金沢大学インターンシップ」/「医療事故防止研修会」/「附属学校園研究会」

【8・9頁】教育『いま』 「薬草・食草・毒草」/「わく・ワーク(work)体験」/県内高校生「電脳科学」/「小・中学生のためのものづくり教室」/「フレンドシップ講座」/「総合的な学習実践講座」

【10頁】できごと/お知らせ新任部局長等の紹介/訃報/表彰等/キャンパス点描

【11頁】学長室・副学長室から 大学間交流協定調印式/金沢美術工芸大学芸術教育振興会に「感謝状」を贈呈/キックベースで爽快に/学校図書館司書教諭講習で/海外の図書館事情を視察/本学へのお客さま

【12頁】ゆとり&リフレッシュ/事務局長歓談/編集後記





巻頭言にかえて

運営諮問会議における学長あいさつ

学長 林 勇二郎

第1回金沢大学運営諮問会議を開催にあたり、委員の皆さん方には大変お忙しい中をお集まりいただきありがとうございます。また、委員就任の際には御無理を申し上げましたが、快くお引き受けいただきましたこと、あらためてお礼を申し上げます。

今日我が国の大学は、本学を含め大きく変貌しようとしています。平成3年の設置基準の大綱化、平成10年の大学審議会答申、それに加えて独立行政法人化の問題が潮流になりつつありますが、大学改革を進めるこれらの一連の動きの背景には、大きくは次のようなことがあると言えます。我が国は科学技術立国と教育立国を掲げて、21世紀における世界のフロントランナーを目指しているわけですが、そのためには高等教育機関である大学が優れた人材を育成し、新しい知を創生することが急務となります。さらに、少子化・高齢化、国際化・グローバル化等々、社会情勢が変化するなかで、大学は教育研究の内容、方法、さらにはシステムも含めて多様な形態に変化していかざるを得ません。これらは互いに性質の異なる問題ですが、両者をうまくかみ合わせながら、大学改革を進めていくことになるでしょう。

即ち、大学改革の方向は次の三点に集約できると思います。一つは、大学の自主・自立です。これは独立行政法人化の是非は別にして、法人格を持つということも含んでいます。二つ目は、大学は教育と研究を責務としますが、そのためにはいろいろな形態があってもいいとする考え方です。大学院重点化などは、差別化・序列化につながる面もありますが、分別化が必要ということで、その中で個性化が進んでいくことになりましょう。三つ目は、競争原理の導入であり、そこでは経営的な感覚や視点を持つことが問われることになりましょう。

金沢大学は、昨年、創立50周年を迎えましたが、これまでの歴史を振り返りながら、今、21世紀に向けていろいろな取り組みを進めているところです。金沢大学のあるべき姿として、「人類の知的遺産の継承と革新を目指す、地域と世界に開かれた大学」を柱とした基本理念を設定しています。優れた人材の育成のための教育と知の創成である研究の重視を確認し、一方でそれらの総合的なイノベーションを通して学術文化の継承を行っていくということです。

独立行政法人化に対しては問題点を整理し、金沢大学としての意見書を外部に公表しています。その中で特に「地方の大学問題」が取り上げられ、その議論を進めるために「市民フォーラム」を開催いたしました。

このように今、金沢大学は外からの法令・省令という制度改編に対応し、内部的には、角間への総合移転の第一期事業と宝町での病院の再開発を進めながら、部局の個性を活かした特徴のある総合大学としての構造改革に取り組んでいるところです。新しいキャンパスが十分整っていない中での教育の開放のためには、県、あるいは金沢市とどう連携をとるかということも最大の課題です。

この運営諮問会議は、学外の有識者の方からご意見をいただき、それを大学の運営に積極的に生かしていこうというものです。金沢大学をこれからどう進めていくかを考えるに当たって大きな意味を持っているわけです。本日は知事、市長、地域自治体のトップの方々、それから産業、教育、経済、医療、法曹に携わるの方々等、国際ということも含めた有識者の方々の委員に御出席をいただいています。



これから全学の御説明をしたあと、皆さん方から御意見をいただくことになります。本学への厳しい注文も含めて会議を盛り上げていただくことが、金沢大学の将来につながることだと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(平成12年8月4日開催された「第1回金沢大学運営諮問会議」で学長が行なったあいさつの要旨です)



世界71の国と地域から350人の留学生が参加 「第13回JAPAN TENT」開かれる

7月28日から8月4日までの8日間にわたって、金沢市を中心とした石川県内41全市町村を会場に「第13回JAPAN TENT」(同開催委員会主催)が開催された。

JAPAN TENTには、世界71の国と地域から350人の留学生が参加し、留学生国際シンポジウムや地域でのホームステイの交流など多彩な催しが実施された。また、地元の学生140人がボランティアとして参加した。



花束で歓迎を受ける留学生
= 金沢市文化ホールで



歓迎式典であいさつする留学生代表
= 同左

28日には、歓迎式典が行われ、本学から林勇二郎学長、畑安次副学長、大橋信喜美留学生センター長、水上修一事務局長、阿部均学生部長等が出席した。

大学教育開放センター 「社会教育主事講習」



講義をする文部省生涯学習局福島健郎社会教育課長
= 大学教育開放センターで

7月24日から8月25日にわたって、大学教育開放センターで、「平成12年度社会教育主事講習」が開催され、石川、富山、福井、岐阜の4県から102人が受講した。

大学教育開放センター 「学校図書館司書教諭講習」

8月1日から8月10日までの8日間、教育学部講義室で、「平成12年度学校図書館司書教諭講習」が開催され170人が受講した。

開講に先立ち、畑安次副学長があいさつをした。



あいさつをする畑副学長
= 教育学部講義室で

「東海・北陸地区国立学校等 技術専門職員研修」を実施

7月25日から28日までの4日間、本学と富山大学を会場に、「平成12年度東海・北陸地区国立学校等技術専門職員研修」が開催された。今回は、「電気電子コース(会場:本学)」と「機械コース(会場:富山大学)」の2コースが実施され、両コースともに32人、計64人が受講した。

受講者は、知識の修得、技術の向上と同時に、同じ職種の交流も図った。



講義する文部省学術国際局研究助成課木下眞課長補佐
= 事務局大会議室で





技術支援センターが発足

7月1日付けで、学内共同利用施設として技術支援センターが発足した。

初代のセンター長に茶谷明義工学部教授が就任した。

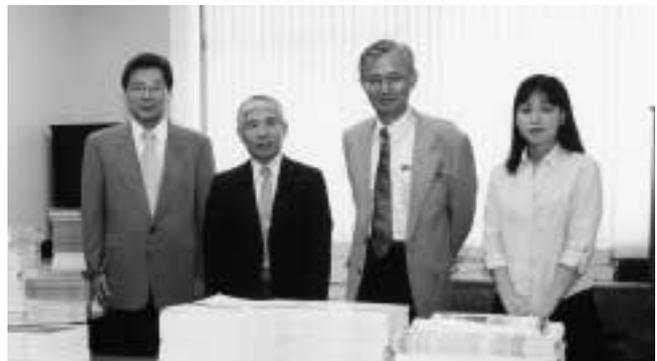
茶谷センター長(写真左)と
野崎明夫技術係長
= 技術支援センター前で



財団法人大学基準協会の 大学評価(相互評価)を申請

8月31日、財団法人大学基準協会の大学評価(相互評価)を受けるための提出資料である本学の「点検・評価報告書」(1244頁)「大学基礎データ調書」(387頁)がまとめられ、その他、概要、パンフなど157点の添付書類を含め、膨大な資料を同協会に提出した。

評価の結果は平成13年3月中旬に通知され、本学では、これらを「報告書」として取りまとめ刊行、公表する予定。



提出資料を前に、写真左から上口大介企画広報室係長、花岡美代次副学長(前点検評価委員会委員長)、畑朋延工学部長(点検評価委員会委員長)、越田みの里企画広報室係員
= 副学長室で

「事務一元化」後の問題点等について検討

本年4月から実施した「事務一元化」に関し、7月19日には「会計系」、同26日には「庶務系」、8月7日には「学務系」がその後の問題点等についての意見交換・検討会を開催し活発な意見交換が行われた。



「会計系」意見交換・検討会風景
= 7月19日、事務局大会議室で

また、「事務一元化」に伴う簡素化・合理化の一環として、7月26日には文書管理システム説明会を、さらに、8月28日から31日までの4日間、各系事務を横断した「事務総合研修」を実施した。



事務総合研修で講義する水上修一事務局長
= 8月28日、同事務局大会議室で



共同研究センター 「アントレプレナーin金沢大学」



フリーディスカッション風景
=工学部秀峯会館で

共同研究センターは、7月5日、工学部秀峯会館で、「みんなで若者会社をつくろう」をテーマに、(財)石川県産業創出支援機構と共催し、「アントレプレナーin金沢大学」を開催した。

セミナーでは、4人のベンチャー起業家が自身の体験などを講演した後、学生達の夢や目標をプラン発表するフリーディスカッションを行った。

医学部が 「献体者孟蘭盆会法要」

医学部は、7月12日、医学部解剖体墓地(金沢市卯辰山)で、医学教育のために献体された正常解剖体の孟蘭盆会(うらぼんえ)



孟蘭盆会(うらぼんえ)法要で参詣する関係職員
=医学部解剖体墓地(金沢市卯辰山)で

法要を執り行い、中村信一医学部長を始め、関係教職員、学生が多数参詣した。

医学部で FD一環の「特別講演会」

医学部は、7月22日、FDの一環としての特別講演会を開催した。



講師は、アメリカ合衆国

講演するLIN博士(写真左)と中村信一医学部長
=医学部講義室で

マーサ大学副医学部長Ta-Jung LIN(ターユング・リン)博士で、演題は「医学部教育改革に関するアメリカの現状」。

当日は、土曜日であったにもかかわらず、学生の教育を担当する教授、助教授及び講師約100人が出席し、医学教育改革の端緒となる講演会となった。

教養教育運営委員会研究調査部 セミナー「放送大学と教養教育」を実施



講義する多田名誉教授
=総合教育棟会議室で

教養教育運営委員会研究調査部は、7月19日、総合教育棟会議室で、平成12年度第1回研究会を開催した。

講師に多田治夫放送大学石川学習センター所長(本学名誉教授)を招き、「放送大学と教養教育」をテーマで、放送大学の現状、他大学での放送大学との単位互換の実状とその方法等が紹介され、討論を行った。

教育学部 「交通安全講習会」実施

教育学部は、7月27日、教育学部講義室で、学生を対象に、「交通安全講習会」を実施した。

この講習会は、最近、学生が関与する交通事故が増加していることから、交通安全意識を高め、事故の抑止を図ることを目的に計画されたもので、金沢中警察署交通



第一課の吉田伸次交通企画係長が講師を務め、約130人が出席した。

講義する吉田係長
=教育学部講義室で





北陸3県高等学校長と 「入試懇談会」開催

7月25日、文・法・経済学部講義室で、本学と北陸3県高等学校長との入試懇談会を開催した。



説明を聞く参加者
= 文・法・経済学部講義室で

学長等のあいさつに続き、畑安次副学長から、平成13年度金沢大学入学者選抜に関する説明を行った。

この後、参加者からの質疑、要望事項等に対する応答や広報ビデオ「金沢大学の過去・現在・未来」放映による本学紹介があり、懇談会を終えた。

日本語・日本文化研修生(日研生) 「公開研究発表会」

8月11日、留学生センターで、日研生11名が「日本語・日本文化研修コース研究発表会」を開催して実施した。



研究発表会風景
= 留学生センターで

この発表会を公開で行うのは今回が初めてで、指導教官、留学生関係教職員のほか、留学生センターがすすめている地域住民の「里親」も参加した。

参加した教官からは、どの発表も非常にレベルが高いと感想が述べられた。

昨年度に引き続き 「金沢大学インターンシップ」を実施

8月21日から25日までの5日間、学生部、施設部、附属図書館及び医学部附属病院で、高校生から大学生までを対象に「金沢大学インターンシップ」を実施した。

これは昨年に続き2回目となるもので、高校生1人、高等専門学校生1人、短期大学生3人、大学生1人の計6人を受入れた。学生は希望した部署で、行政事務、建設現場視察、図書業務、病院窓口業務などを体験した。



建設現場視察を体験する参加者
= 医学部附属病院の建設現場屋上で

医学部附属病院 「医療事故防止研修会」を開催

医学部附属病院は、8月22日、医学部講義室で、「医療事故防止研修会」を開催し、約130人が出席した。

この講習会は、職員の安全意識を高め、医療事故の防止を図ることを目的に計画されたもの。小林勉病院長補佐、内田宏美京都大学医学部附属病院総括リスクマネージャーの講演があった。



講演する内田リスクマネージャー
= 医学部講義室で

教育学部附属学校園で 平成12年度「附属学校園研究会」

教育学部附属学校園は、8月30日、附属中学校柏樹ホールで、「附属学校園研究会」を開催し、約100人が出席した。



講義する金子勲教育学部附属教育実践総合センター長 = 附属中学校柏樹ホールで

この研究会は、附属学校園の研究体制の連携を強化し、「一学校段階を超えた縦断的・統合的な研究体制を設置して、系統的な、かつ幼児・児童・生徒の発達段階に応じたところの最も適した教育方法を先導的に研究する体制を作る」ことを目的に開催されたもの。



未来を育てる！！

薬学部

平成12年度大学等地域開放特別事業「薬草・食草・毒草」

7月22日，29日の両日にわたって，理学部押し葉標本室，角間里山ゾーン，薬学部附属植物園などで，平成12年度大学等地域開放特別事業「薬草・食草・毒草」を開催した。

この事業には，金沢市内の親子約20人が参加し，角間里山ゾーンでの野外観察やさまざまな植物の採集などから，植物学の基礎を習得するとともにオウレン，アカメガシワなど約50種類の植物の押し葉，ハーブティの作り方などを体験した。



植物の野外観察と採集
= 角間の里山で



押し葉作りを体験
= 薬学部講堂で

地元中学生の金沢大学職場体験 「わく・ワーク(work)体験」

7月27日，28日の両日，教育学部と附属図書館で，「地域と共に『わく・ワーク(work)体験』」の中学生(2つの中学校から7人)を受入れた。これは，「職場体験やボランティア活動などの体験を通して，将来の生き方を考え，自分の可能性を探ってみよう」と石川県教育委員会が本年から始めたもの。

教育学部では，バイオ実験助手や当日開催された交通安全講習会の受付けの業務など，また，図書館では貸出業務などを体験した。



林勇二郎学長(写真中央左)及び水上修一事務局長(同右)と記念撮影する中学生
= 学長室で



大川勝徳教育学部教授(写真右)のバイオ実験手伝い
= 教育学部研究室で

県内高校生が「**電腦科学**」を体験 いしかわ子どもサイエンスドリーム

コンピュータを使って科学への興味を高める「サイエンス・カレッジ」が，7月31日から8月4日までの5日間，計算科学科コンピュータ室で開催され，県内の高校生約10人が電腦科学の世界を体験した。

この企画は，石川県企画開発部が本学計算科学科と共催し，子どもたちの科学離れを防ぐことを目的に進めている「いしかわ子どもサイエンスドリーム」事業の一環として実施されたもの。



田子精男理学部教授(写真中央)からコンピュータの操作・活用技術などを聴く高校生
= 教育学部コンピュータ室で





工学部で 「小・中学生のためのものづくり教室」



7月22日、工学部では、「小・中学生のためのものづくり教室」を開催し、市内の小中学生約90人が参加した。

この企画は、若者の理工系離れを防ぐため、小中学生のうちから、もの作りの楽しさと技術の大切さに興味を持ってもらうことを目的に、2年前から開催している。

今回は、パソコンで制御できるロボットや真ちゅう製ミニハンマー、コンクリート製オブジェの製作に挑戦した。

金属工作に挑戦する参加者
= 技術支援センターで

教育学部と辰口町教育委員会共催で 「フレンドシップ講座」

8月22日から24日までの3日間、教育学部と辰口町教育委員会が共催し、「平成12年度フレンドシップ講座」を実施した。

この講座は、「野外での生活体験を通じて自然の力や素朴な道具の役割を理解するとともに、友達や大学生との野外での共同生活や交流を通して、社会生活のルールやマナー、忍耐力・集中力・チャレンジ精神・協力することの大切さを学び、友情(フレンドシップ)を深める」という趣旨で、本年度4年目を迎えた。

参加者は、辰口町内小学校5年生41人のほか、教育学部教官・学生、辰口町の教諭・教育委員・レクリエーション協会及び本学卒業生のボランティアなど、総勢で100人を超えた。

児童は、竹を使った炭焼や食器作り、電気のないテント生活など、自然の中でたくさんの体験をした。



竹で作った食器で食事する参加者
= 辰口わきあいあいの里キャンプ場で

教育学部附属教育実践総合センター 「総合的な学習実践講座」開講



意見交換をする参加者
= 教育学部附属教育実践総合センターで

教育学部附属教育実践総合センターは、8月24日、25日の両日、同センターで、県内各地の小学校の教員を講師に招き、「総合的な学習実践講座」を開催した。

各講師から、それぞれの学校での授業やカリキュラムづくりの様子、学校や子どもたちの実際等について、様々な資料に基づき発表があった。教職を目指す学生が、両日とも約10人が参加し、熱心に聴講した。



新任部局長等の紹介

次の3教授が、部局長等に就任した。(敬称略)

技術支援センター長



あきよし ちやたに
明義 茶谷

12.7.1 ~ 14.3.31

工学部・機能設計講座

医学部長



ひろし まぶち
宏 馬淵

12.8.1 ~ 14.7.31

医学部・内科学第二講座

保健管理センター所長



こういち みわ
晃一 三輪

12.8.1 ~ 14.7.31

医学部・外科学第二講座

写真下の記載は、氏名、任期、所属の順

訃報

7月16日、本陣 良平元学長(名譽教授)が御逝去されました。享年78歳。ここに御報告するとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。



表彰等

医学部医療研究会に助成金

7月17日、過疎地域における大学の医療活動などを支援している毎日新聞大阪社会事業団から、金沢大学医学部医療研究会(顧問:城戸照彦教授 医学部保健学科)=写真)に助成金が贈られた。これは、医学部保健学科の学生たちがボランティア活動



で県内の輪島市大沢地区などの過疎地域で健康調査、相談などを続けていることが認められたもの。

北陸テレコム懇談会表彰

北陸テレコム懇談会が「懇談会の事業活動または情報通信の普及・発展に功績のあった個人または団体」の表彰式が7月25日、金沢市内のホテルで行われ、工学部橋本秀雄教授=写真=が表彰された。



キャンパス点描

彫刻作品「空間の砦」と「通風」

金沢美術工芸大学芸術教育振興会から、地域における芸術文化の向上と発展及び芸術教育の振興のため、本学へ彫刻作品「空間の砦(くわかんのとりで)」「通風(とおりがぜ)」の2点(いずれも、第53回二紀展入選作品)が寄贈された。



彫刻作品「通風(とおりがぜ)」
= 附属図書館前(広場)に展示



彫刻作品「空間の砦(くわかんのとりで)」
= 南福利施設食堂横(芝地)に展示



大学間交流協定調印式

・ヘルシンキ工科大学(フィンランド共和国)スロバキア工科大学(スロバキア共和国)・

8月21日及び8月23日、林勇二郎学長がヘルシンキ工科大学及びスロバキア工科大学を訪れ、大学間交流協定の調印を行った。



協定書に調印する，ウロネンヘルシンキ工科大学長(写真前列右)と林学長(同左)
=ヘルシンキ工科大学で



協定書を交わす，ルドルフ・モルナースロバキア工科大学長(写真前列右)と林学長(同左)
=スロバキア工科大学で

キックベースで爽快に

花岡美代次副学長が、7月18日行われた総務部職員のキックベース大会に飛び入り参加し、ボールを豪快に蹴り上げた。
【12頁に関連記事】



学校図書館司書教諭講習で

8月1日、「平成12年度学校図書館司書教諭講習」で、畑安次副学長があいさつし、「学校図書館における司書教諭には、児童・生徒、さらには保護者と「ホン(本)」との間を仲立ちする架橋的役割を果たす教員であることが期待され、司書教諭の養成・確保は、喫緊(きつきん)の重要かつ現代的な課題である」と述べた。
【6頁に関連記事】



海外の図書館事情を視察

8月下旬、和田敬四郎副学長(附属図書館長)はパーミンガム大学(英国)及びオスロ大学(ノルウェー)の図書館を視察した。



オスロ大学図書館の閲覧室(階段、天井、フロア、机、椅子、書架などすべてが木製である。)



パーミンガム大学図書館の正面

金沢美術工芸大学芸術教育振興会に「感謝状」を贈呈

8月上旬、金沢美術工芸大学芸術教育振興会から、彫刻作品の2点の寄贈を受けたことに対し、8月17日、林勇二郎学長が同振興会に「感謝状」を贈呈した。

【10頁に関連記事】



百々俊雅学生部長(金沢美術工芸大学教授)に感謝状を贈呈する林勇二郎学長
=金沢美術工芸大学で

本学へのお客さま

ヘルシンキ工科大学(7月5日訪問)



林学長を囲んで記念撮影をする，ヘルシンキ工科大学大倉講師(日本語教育担当)(写真右から2人目)
=学長室で

蘇州大学(8月1日訪問)



林学長を囲んで記念撮影をする，蘇州大学徐記忠図書館長(写真右から2人目)，金問涛同副館長(写真中央)及び陸惠星同大学国際合作交流処通訳(写真左)
=学長室で

ゆとり&リフレッシュ

キス釣り大会

7月20日(海の記念日)の未明から午前11時にかけて、県内の内灘海岸から千里浜海岸の間で、文部省共済組合金沢大学支部主催のキス釣り大会が行われた。小林和久経理部長を始め、家族を含めた約70人が参加した。

1位は、「大物賞」で20.6cm、「大漁賞」で33匹。

続いて、内灘海岸で参加者全員でバーベキュー大会を行い、楽しい1日を過ごした。



総務部職員がスポーツ大会で汗を流す

総務部職員の親睦と健康増進を図ることを目的に、7月18日、同26日及び8月2日の午後5時すぎから、キックベース大会、ソフトバレー大会及びボーリング大会を実施した。

吉田真言総務部長を先頭に総務部全職員が参加した。



水上事務局長，辰口町教育長と歓談

水上修一事務局長は、辰口町で行われた「フレンドシップ講座」会場で、新田寿一辰口町教育長と歓談した。新田教育長は、金沢大学と共催している「フレンドシップ講座」を、5年目となる来年も是非継続して実施し充実させたいと話し、水上事務局長も辰口町当局及び同教育委員をはじめ関係者に、この講座継続の敬意を表し謝辞を述べた。ほかに、いろいろな分野で歓談した。【9頁に関連記事】



簡易炭焼釜の竹炭作りを見学
(左から)新田教育長、水上事務局長、大久保英哲教育学部教授、西田勉教育学部事務局長
=辰口わきあいあいの里キャンプ場

編集後記

平成8年4月に「アカンサスニュース」が創刊されてから4年半がたち、今号で49号になりました。これを通して、本学のたくさんの動きを、学内はもとより地域や全国に発信してきました。発行にかかわった皆様と関係者に敬意を表したいと思います。この間、現在の企画広報室が担当したのは、45号から49号までの5号でしかありません。

さて、50号を迎える次号から、紙面の充実を図り、同時に表紙のデザインを一新することにしました。従来の写真を中心としたものを基本的には引き継ぎながら、重要と思われる事項については資料や記事を載せることにしたいと思います。

このアカンサスニュースを担当する企画広報室が新設され

てまだ6か月しかたっていませんが、業務やイベントなどについて、新聞紙上に取り上げていただきました。僭越ながら最新のものを別掲します。

今後とも皆様の御協力と御支援をお願いします。

総務部企画広報室一同

12.9.5「北國新聞」掲載(記事左)
12.8.10「北陸中日新聞」掲載(記事右)



平成12年9月22日発行
(原則として毎月1回第3週に発行)

〒920-1192 金沢市角間町
編集 金沢大学総務部企画広報室

TEL 076-264-6136
FAX 076-234-4015

本紙の内容、その他本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ 愛称「KUPIS」(キューピーズ)」
(アドレス = <http://www.kanazawa-u.ac.jp>) でもご覧いただけます。
本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp でも受け付けています。